



卓 話



「入って学び、出でて奉仕せよ」

国際ロータリー第2580地区

ガバナー 多田 宏氏

この1年間当地区ガバナーを務めます多田です。

先日、世界中の地区ガバナーエレクトが一同に会し、ガバナーの仕事について一週間勉強しました。朝8時30分からロータリー・ソングを歌うことから始まり、10時までRIの会長、エレクト、パスト会長の講演が行われた後、各部屋に分かれます。会場の入り口にはRIの標語である「入って学び、出でて奉仕せよ」という言葉がかかげられており、これを毎日見て私は大変感銘を受けました。



これは今回だけのことではなく、毎年しているのですが、どうして今までのガバナーは日本にこの報告をしなかったのかと思いました。私は神田ロータリークラブに入り30年以上経ちますが、この標語を一度も見たことはありません。そこでこの標語を2580地区、3千数百名の人々に教えようと、本部に問い合わせ許可をもらい、皆さんに今日お配りした「入って学び、出でて奉仕せよ」という名刺大のものを3千数百枚作りしました。公式訪問の時にたずさえて、ささやかなプレゼントとして差し上げています。

この簡明にして、かつ意味の深い言葉を、皆さんに机の隅に置いていただきますと、多忙な日々を送っている中、必ず心の扉をノックしてくれることと思います。これは金銭では評価できません。人によっては莫大なお金に相当するものでしょうし、人によってはごみになってしまうかもしれませぬ。それはロータリアンの皆さんが決めてくだされば良いと思います。

ガバナーが訪問で、よくニコニコに入れる人がいますが、そんな些少のお金を入れたところで、何の役にも立たないと思いますので、私は一切そういうことはしません。

それではロータリアンの心の扉をノックする為には何が必要かと考えました。この「入って学び、出でて奉仕せよ」という言葉をご理解頂けますでしょうか。

ロータリアンの3大責務は、会費を払うこと、例会に出席すること、地域雑誌（我々は「友」になりますが）かザ・ロータリアンを読むことになっています。例会に来て歌を歌って、食事だけで帰らず、必ず何かを学び、出席したら奉仕しなさいということです。日本人は何でもお金で解決

しようと思いますが、私はそれには反対です。だから公式訪問の時、会長・幹事の会場で貴クラブはいくら寄付したか、何名の会員を増名するかと一切尋ねません。ただ、その代わりに何か手土産をと思い、これを持って来ましたので大切に使ってください。

私の初心表明はこのガバナー月信の7月号に書いてあります。これはRIは会員全員に配る必要はなく、各クラブの会長、幹事に出せばいいものですが、私達の地区はガバナー月信料を頂いていますので全員にこれを配っています。また全会員だけでなく日本から選出したRIの理事にも配っています。これを読まれたRIの元パスト理事達から本当にたくさんのお励みが届きました。聞きますとこの様なことは珍しいことだそうで、内容が良かったのかとうれしく思っています。是非皆さんに読んで頂ければと存じます。

私がガバナーエレクトとなった昨年の7月に、段ボールの箱いっぱいの本が送られてきました。その中にガバナー要覧や、地区指導者要覧、ディクショナリー等が入っています。これによりロータリークラブの会長・幹事といったRIの大切なメンバーについて知ることができます。もちろんRI会長であるジョン・ケニー氏も写真入りで掲載されました。そこを読むと彼はスコットランド出身で、法律家であると同時に、商工会議所の会頭も務め、ロータリー・インターナショナル・ブリテン・アンド・アイルランドの会長も経験していたそうです。

この方のターゲットが皆さんご存知の「ロータリーの未来はあなたの手の中に」ということですが、これは本当に日本語の直訳文です。私だったら「ロータリーの将来はあなた達の双肩にかかっている」と訳します。私はこのターゲットは非常に精神性を訴えていると感じています。今、ロータリーは大きな曲がり角に来ています。確かに増強もし、膨張もしましたが、現状はロータリー先進国と言われているアメリカ、オーストラリア、日本あたりのロータリアンは減ってきており、新興国という語弊がありますが、韓国、インド、ブラジル、ロシア、アフリカというところは増えています。そうした状況下、ポール・ハリスが1905年に作った理念で100年続けてきた物の考え方、奉仕の心がどこかフィットしなくなってきました。それに嫌気がさした古いロータリアンが退会を始めています。これは非常に大きな問題として取り上げなくてはなりません。

ジョン・ケニー氏はロータリアンの曲がり角は2回あり、1回目は第二次世界大戦の時、2度目は今であると話しています。彼はそれゆえ、こうしたターゲットを作り、ロータリーの第2の奉仕部門である職業奉仕に非常に力を入れているのです。今までほとんど職業奉仕を強調してきたRI会

長はおらず、とにかく拡大しろ、増強しろ、資金の奉仕を
するとそういったことを随分言ってきました。日本でもそ
れに嫌気をさしたロータリアンはかなり多いのではないで
しょうか。ガバナー達の中にもこれはロータリーの方針で
はないとやめて行く人がいます。日本はロータリアンが一
時13万人になったことがありましたが、今は9万5千人を
切っています。3万5千人少なくなるということは一つの
ゾーンが消えてしまうくらい減っているのです。

30数年前、私がロータリアンになった頃はいくつも踏み
絵を踏みました。ところが、次第にちょっと食事でも一緒
にどうですかくらいの感覚で簡単にロータリークラブへ入
会させるようになってしまいました。今、各クラブを訪問
していますが、あの東京クラブですら会員減少で悩んでい
ると会長はおっしゃっています。データによると、トッ
プ10の国の平均ロータリアンのクラブ会員数は約40名で
す。300人以上もの会員がいて減少しているからどう増強す
るか悩むのはおかしいと思います。とにかく日本の平均
だって1クラブ40名くらいで、イタリアなどの多いところで
約55名、ブラジルのように少ないところだと約22名で
す。その様に考えるとこちらのクラブだって60名以上で
すから大クラブの中に入ります。

それで損益分岐点が65名〜67名とう話ですが、私は多
すぎると思います。日本のロータリアンが9万5千人切った
ことで、黒田RI理事は、3ゾーンをキープするには、1ゾーン3
万5千人として10万5千人いないとキープできない、つまり1
万人増強しなくてはならないと言いますが、そんなのは
ほっておいて、2ゾーンになっても良いのではと私は思っ
ています。それより地域に眠っている志の高い人をもっと集
めなくてはなりません。つまらない人がロータリークラブ
に入っているのだから私が入るわけがないと言われるよう
では人が集まる訳がありません。

それからお金のことばかりロータリーは言っているよう
ですが、それは間違っているのではないのでしょうか。奉仕
はお金を出すことではありません。自分の時間を提供でき
るか、自分の専門が提供できるか、あるいは自分の肉体労
働が提供できるか、これが奉仕です。もちろん後からお金
も付いてきますが、プライオリティーはお金ではありません。
自分は忙しいからという声があちらこちらから聞いて
いますが、私はそういう人はロータリアンをやめた方が良
いと言っています。そういう人がロータリアンになってしま
っているのだから昔は輝いていた、ロータリークラブが輝か
なくなり、そうなるかと転げ落ちるのは早いと思うからで
す。

ジョン・ケニー氏はいくつかおっしゃっておられます
が、ポイントを列挙します。「先ずロータリアンは倫理観
の強い人間愛に満ちた人である。ロータリアンは厳選され
て入会した人々であり、その職業を通しての奉仕を行い、
個々人としての力は小さいけれど、まとめれば非常に大き
なことが出来るということを知っている人である。ロータ

リークラブはクラブ独自の自治権を有しているのだから各
クラブで何が最も有意義な奉仕、その効果が人々に幸せを
もたらすかどうかを決めなくてはならない。最後にロータ
リアンの第2の奉仕部門である職業奉仕を重視する。」私は
全くこれに同調します。彼は私より少し若いのですが、世
代的にも似た年齢です。昭和15、6年の生まれで、グラス
ゴー大学の出身です。この間のバーミンガムの国際大会の
翌日、グラスゴー大学へ行ってきました。この大学は800年
の歴史があり、相当風格のある大学で、法学部、医学部よ
うが有名です。この様な伝統のある所で学んで来た方です
ので、おっしゃる事に非常に精神性が含まれて、私も大変
共鳴し、自信を得ました。エジンバラのカレドニアン・ヒ
ルトンでジョン・ケニーに会い、東京から来たのでしょ
う、インスティテュートで会いましょうなどの言葉を交わ
しました。

最後に私のロータリーに関する見解と理解に関しまして
お話します。RIは「ねばならない」、「そうあるべき」等
の用語は避け、「推奨」という言葉をよく用いています。
この推奨という言葉は、自発的に自ら進んで物事を行って
もらうという意味です。もっと深く言いますと、自分の力
を蓄え、それに点火し、自らが行動に移してもらうのが推
奨であり、それがロータリー精神のI serveの原点です。会
長に言われたからする、委員長に言われたからするではあ
りません。自ら、自分の気持ち、意思で行動を起こすのがI
serveです。このI serveに反対して、1917年に離脱したの
がライオンズ・インターナショナルの人達です。どちらが
よく、どちらが悪いということではなく、物の考え方の相
違であると思います。しかし、ロータリーは100年経とうと
I serveの精神でやらねばなりませんから、上からの垂直型
リーダーシップは向いていないのです。ロータリアンは基
本的には平等です。会長だからといって2倍の会費を払っ
ている訳ではないですし、新しく入ってきた人でもいつかは
必ず役が回って来ます。そしてその役が回って来た時には
心よく引受けなければなりません。自分は忙しいから、能
力がないからといって受けない方がおりますが、これは日
本のロータリーを劣化させている原因となっています。
ロータリーのバッチは歯車ですが、これが回らなくならな
いよう、どうか皆さん自分の心の扉をノックして、I serve
の精神をしまいこんで頂きたいと思います。今日の私の話
をどのように受け止められたか分かりませんが、まとめま
すと、我々ロータリアンは自ら進んで行動するという精神
構造の持ち主であり、そうあるべきであることを自覚し、
そして自分を含め、それを育ててもらった世間や社会に、
持っているエネルギーの一部を還元し、より良い社会を築
いていこうということです。まだ言いたいことは多くある
のですが、RIはどこを向かって走っているのか、という
組織になってきているのかなど又機会がありましたらお話
しようと思っています。